

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9)

－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV(9)

－ Class Reports and the results of a questionnaire survey －

松 田 勇 一

Yuichi MATSUDA

概要 本稿では、宇都宮共和大学における平成29年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育として「コミュニケーション講座」が開講され、松田（2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。また、平成28年度より、コミュニケーションの「話す聞く」の部分は「コミュニケーション・スキル」へ、「読み書き」の部分は「基礎ゼミ」に分割され、松田（2017）では「基礎ゼミ」の授業報告と意識調査の結果を示した。本稿では、2年目を迎えた「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

平成29年度の基礎ゼミは1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して5つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は10名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

平成29年度の基礎ゼミの目的は、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。

- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種ドリルを通じて基礎学力の定着を図る。
- (7) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。

2.2 授業の方法と内容

平成29年度基礎ゼミは、受講者50名（日本人学生39名・留学生11名）を5クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は5クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、5人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや問題点などを話し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業内容は、大きく2つに分けることができる。1つは初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いた回、もう1つは補助回であり、基本的には平成28年度と同様であるが、最終回を卒業研究発表会への参加としたこと等の変更点もある。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	2	ドリル1（算数・漢字・公民）
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	ドリル2（算数・漢字・公民）
	5	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	学内行事「市長と語ろう」
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	ドリル3（算数・漢字・公民）
	9	テキスト第5章「大学はワンダーランド」 テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	ドリル4（算数・漢字・公民）
	11	レポートの書き方（5クラス合同・松田担当）
	12	ドリル5（算数・漢字・公民）
	13	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	14	キャンパスツアー発表準備（5クラス合同・PC教室にて原稿作成） 授業評価アンケート入力
	15	キャンパスツアー発表（5クラス合同・1人1分）
秋	16	クラス再編成・自己紹介・ドリル6（算数・漢字・公民）

学 期	17	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	18	就職講座（5クラス合同・就職委員会主催）
	19	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	20	夏休みの課題発表（5クラス合同・「私のお気に入りの場所」・1人1分）
	21	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	22	ドリル7（算数・漢字・公民）
		大学祭ポスター展示（夏休みの課題「私のお気に入りの場所」）
	23	テキスト第11章「研究テーマを考える」
	24	テキスト第12章「研究を進める」
	25	地理情報分析システム「MANDARA」研修会（5クラス合同・西山担当）
	26	テキスト第13章「研究報告をまとめる」 テキスト第15章「基礎ゼミを振り返って」
	27	最終発表（1）「基礎ゼミで学んだこととこれからの研究テーマ」（5クラス合同・1人2分スピーチ）
	28	最終発表（1）「基礎ゼミで学んだこととこれからの研究テーマ」（5クラス合同・1人2分スピーチ）
	29	テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」
30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講しコメントを書く）	

また、平成28年度と同様、課題として週間日誌と作文を課し、2週間に1度指定の用紙に記入させて提出させた。週間日誌、作文、各種ドリルは、2穴バインダーにポートフォリオとして学生に管理させた。

2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌・作文）40%、テキストのワークシート30%、発表30%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（-欠席回数×4点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。また、週間日誌と作文はクラス担当教員が添削、確認を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、平成29年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生37名、留学生9名、秋学期は日本人学生36名、留学生3名であった。調査した学生数の違いは、出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択肢法、5段階評定法、自由回答法で回答さ

せた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

学期	春				秋			
	0～1日	2～3日	4～6日	毎日	0～1日	2～3日	4～6日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	34(91.9)	3(8.1)	0(0.0)	0(0.0)	31(86.1)	5(13.9)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	9(100)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)	2(66.7)	0(0.0)
全体	0(0.00)	0(0.0)	43(93.5)	3(6.5)	0(0.00)	1(2.6)	33(84.6)	5(12.8)

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

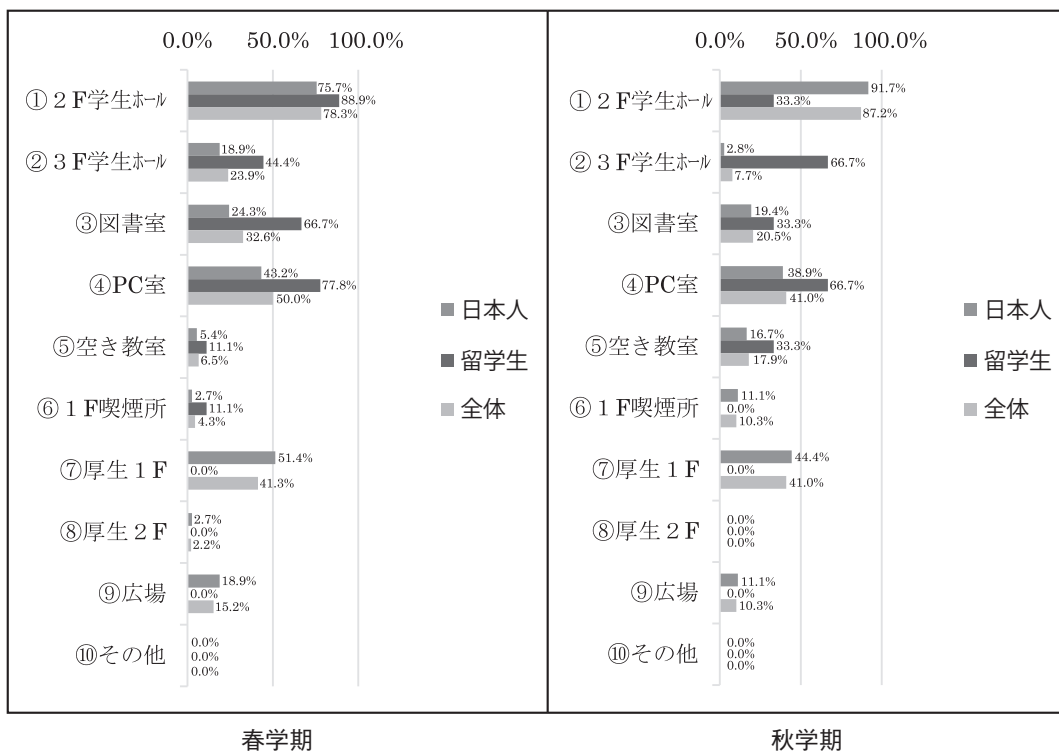


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

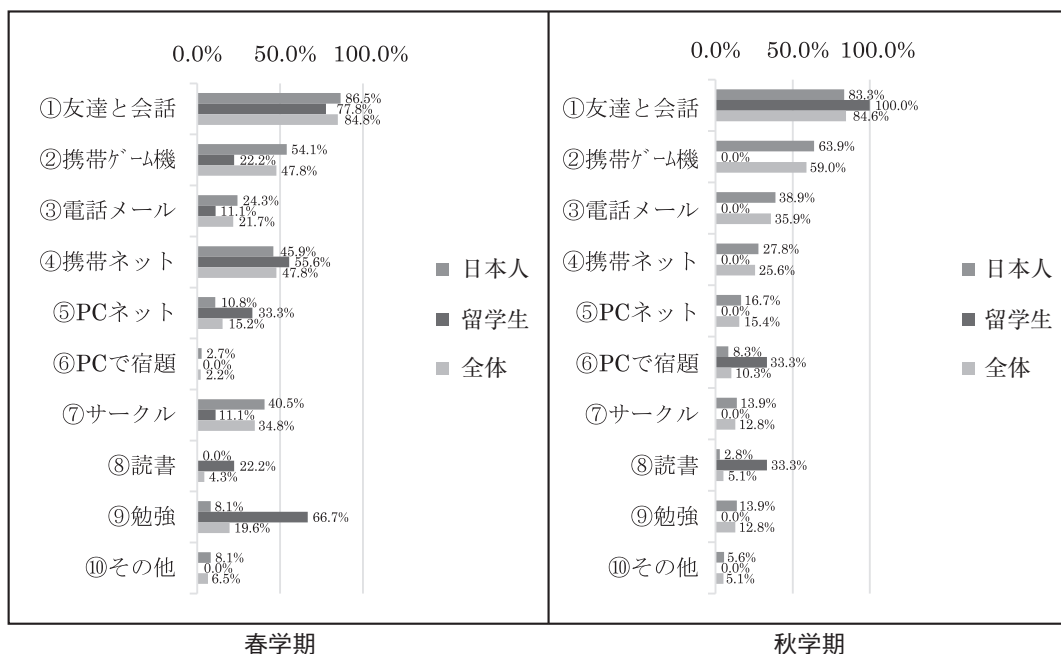


図2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

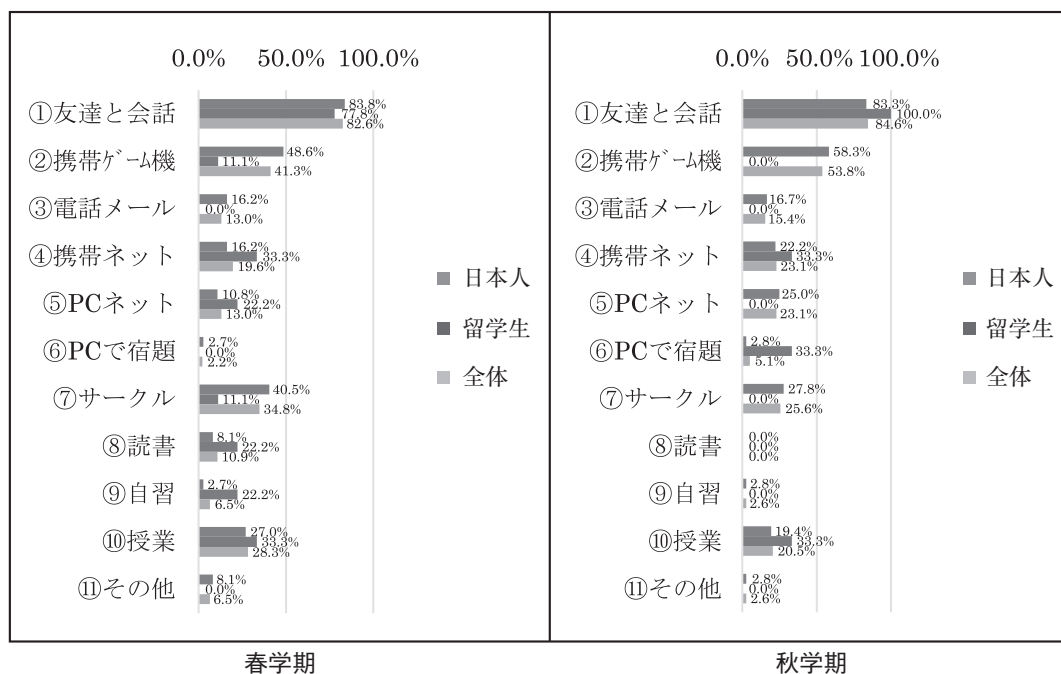


図3

5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

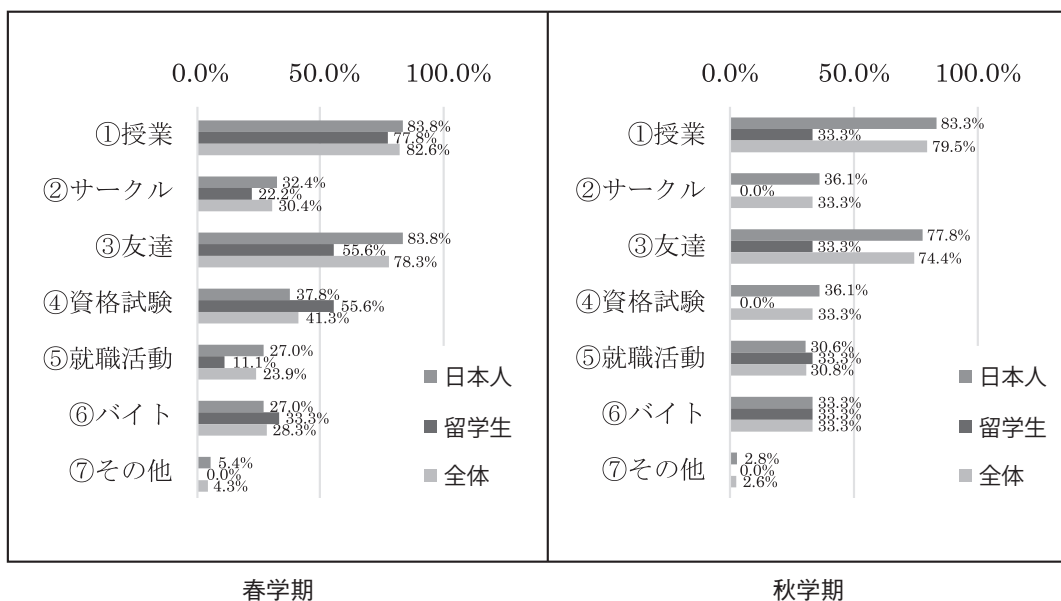


図 4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

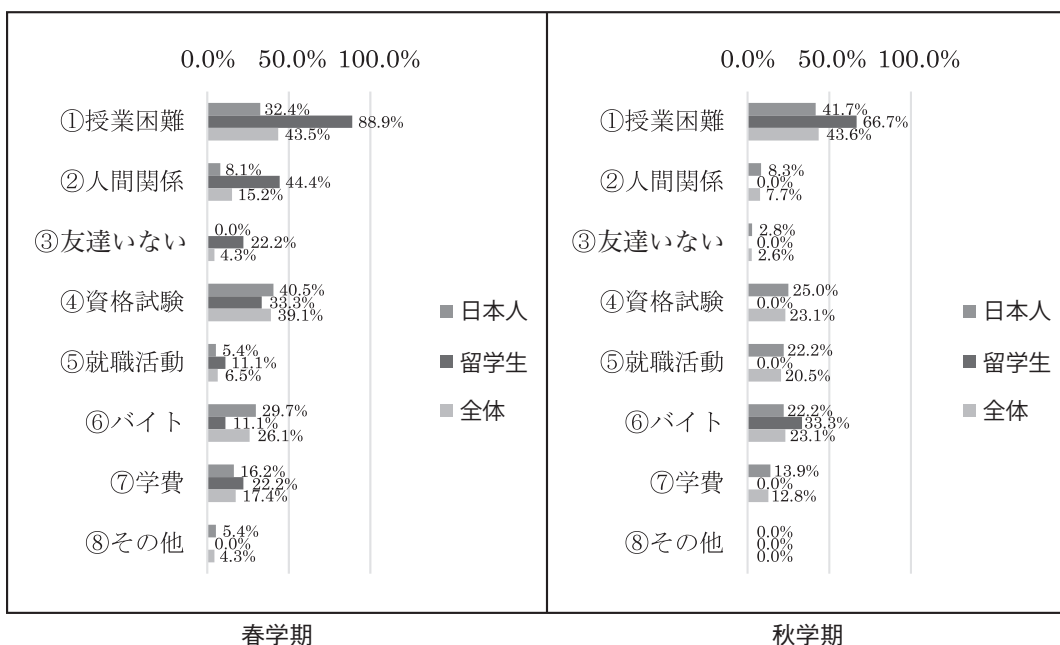
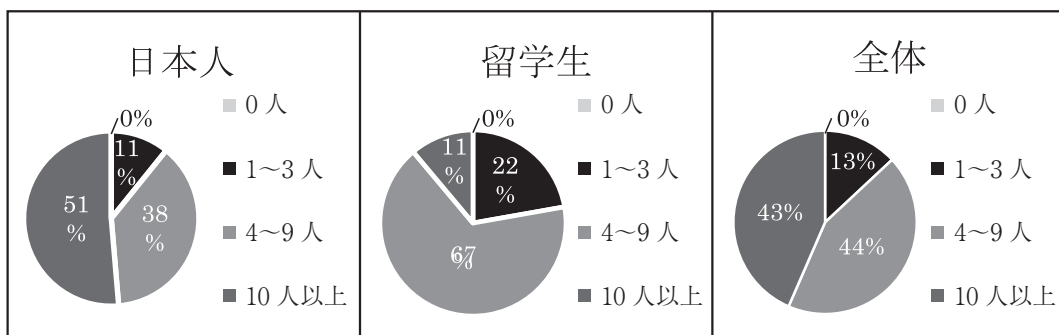
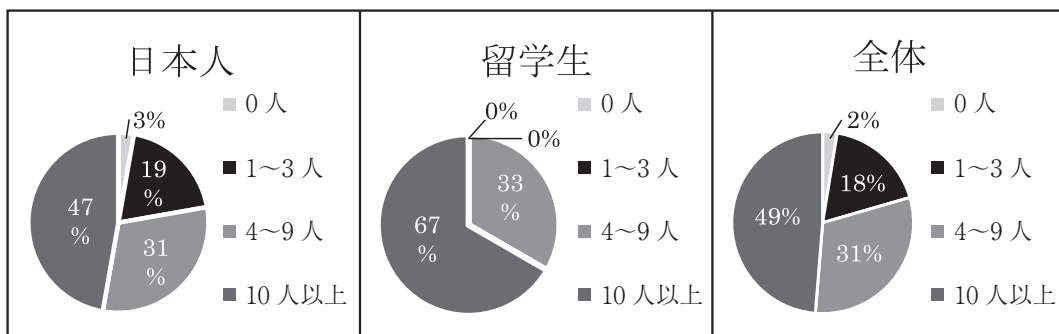


図 5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？



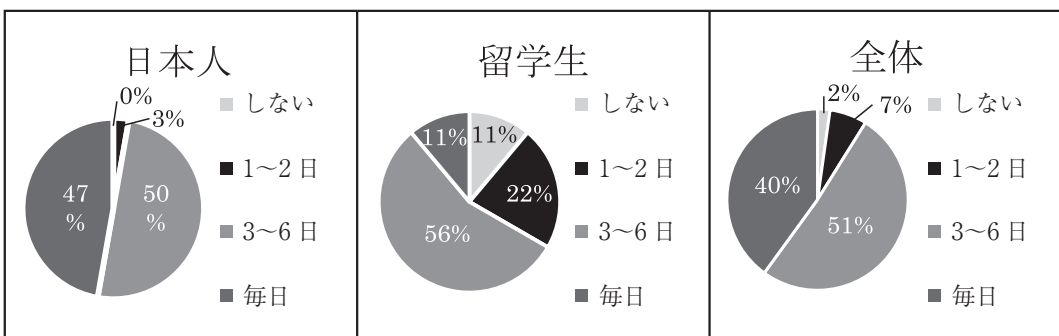
春学期



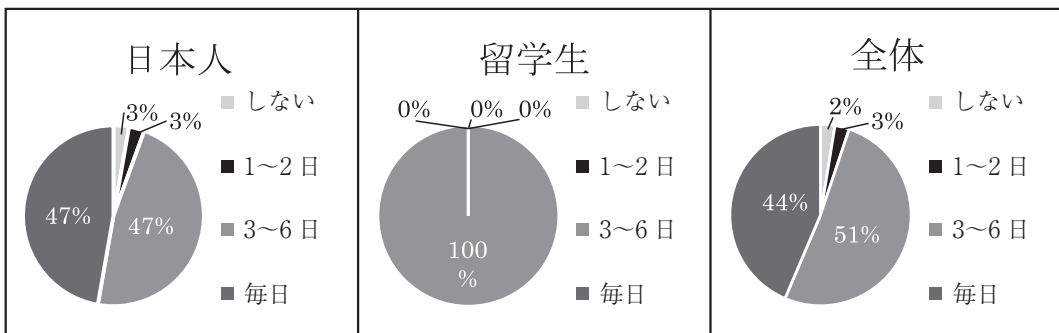
秋学期

図6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？



春学期



秋学期

図7

< 9) 10) は日本人学生への質問です >

9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？

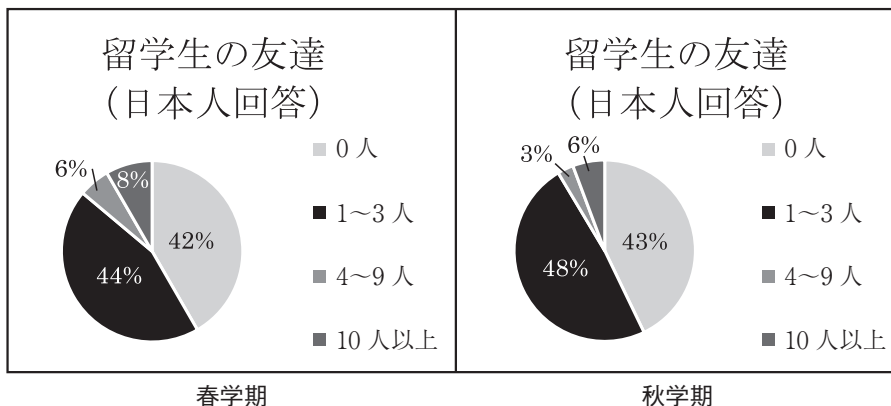


図8

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？

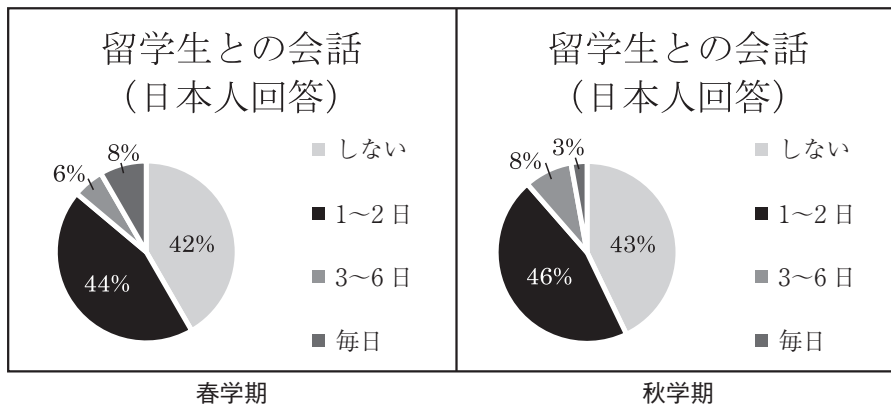


図9

< 11) 12) は留学生への質問です >

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？

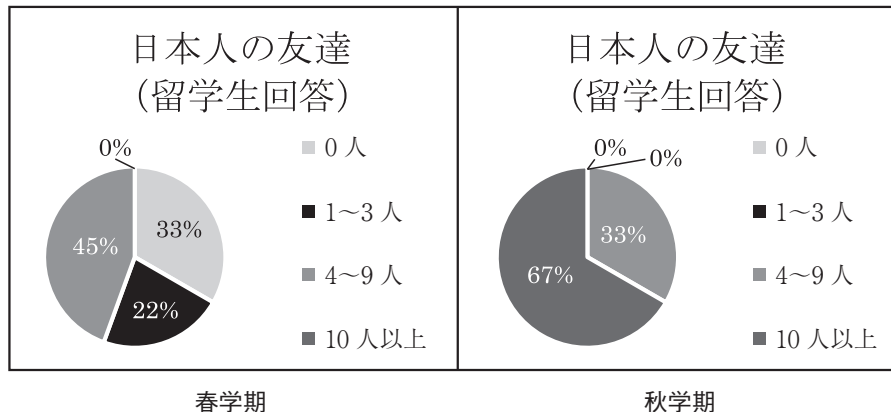


図10

12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

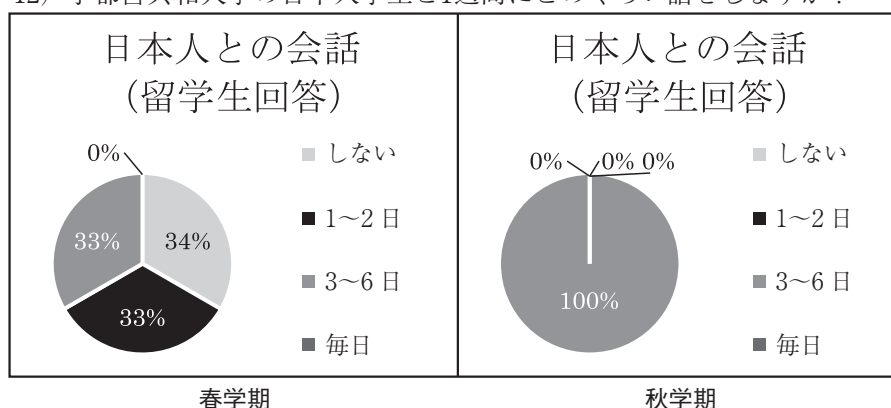


図11

質問1)は、通学の回数であるが春学期、秋学期共に9割以上の学生が週4~6日あるいは毎日と回答した。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では例年同様に「2F学生ホール」が最も多く、次いで「PC室」が多かった。また、「図書室」の利用についても、全体で春学期32.6%、秋学期20.5%と例年同様あまり高くない。今後も図書室の有効活用に取り組む必要があるだろう。

質問3)は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。全体では春学期秋学期共に「友達との会話」が最も多く8割を超えた。次いで「携帯ゲーム機」が多かった。また、「サークル活動」が全体では春学期34.8%、秋学期12.8%となり、昨年度の春学期28.0%、秋学期3.0%よりも多くなった。昨年度よりも今年度の新入生の方が、より学内の活動に積極的に取り組んでいる姿勢が見える。

質問4)は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、例年同様、「友達と会って話すこと」が最も多く8割を超えた。「サークル活動」の項目については、昨年度の調査では全体で春学期52.0%から秋学期3.0%と減少したのに対し、今年度は春学期34.8%、秋学期25.6%となっており、昨年ほど大きく減少していない。昨年度よりもサークルに定着する率が高かったと推測できる。また、「授業」に対しても昨年度は春学期全体で12.0%、秋学期12.1%であったが、今年度は全体で春学期28.3%、秋学期20.5%と高くなった。この数値に関しても、昨年度よりも今年度の新入生の方が大学生活に対する前向きな姿勢が感じられる。

質問5)は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達付き合い」が8割に近い数値となった。「サークル活動」は昨年度全体で春学期20.0%、秋学期6.1%だったが、今年度は全体で春学期30.4%、秋学期33.3%と高くなった。

質問6)は、生活の中で困っていることを聞いたものであるが、例年同様「授業が難しい」が最も多くなった。

質問7)、8)は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができており、10人以上の友達ができた者

も全体で春学期43%、秋学期49%であった。この数値も昨年度より高い。

質問9)~12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の中で留学生の友達がない割合は、春学期42%、秋学期43%と殆ど変化がない。この結果は、昨年も同様であった。春から秋へと時間が経過したからと言って、留学生と日本人学生が自然に交流するようになることはないということが推察される。春学期は合宿交流研修、バーベキュー、秋学期はリクリエーションフェスティバル等の行事があるが、いずれも日本人学生同士、留学生同士の交流に留まっていることが多く、今後は両者の交流という視点からのイベントが必要かもしれない。

次に大学生生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生生活に満足している ③大学生生活は楽しい ④大学生生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している ⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

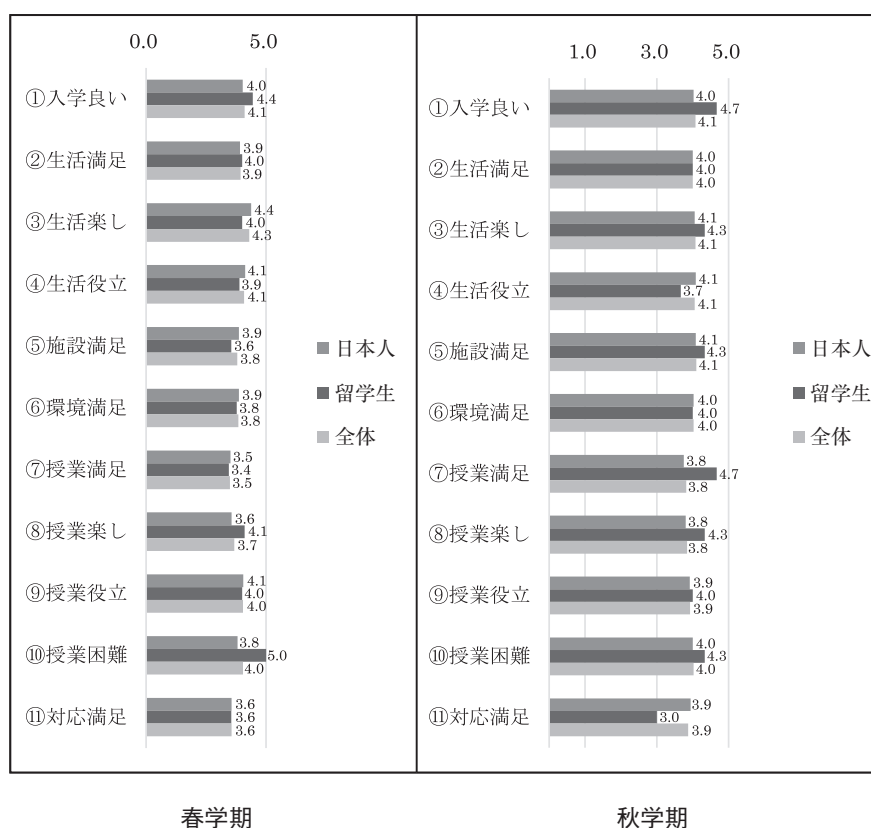


図12

まず、質問1の「入学して良かった」については、全体で春学期4.1、秋学期4.1で昨年度（春学期3.6、秋学期3.4）よりも高い数値となった。昨年度は、全体で4.0を超えたものが春学期1項目だけだったのに対し、今年度は春学期、秋学期ともに複数の項目が4.0を超えた。ここからも、昨年度よりも今年度の新入生の方が、大学生活に対して前向きな、肯定的な態度であることが察せられる。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

<日本人学生：春学期>

- ・大学の閉まる時間が早い・自販機の種類が少なく補給が遅い。
- ・大学の閉まる時間が早い・自販機の種類が少なく補給が遅い・食券の自販機に500円玉が入らない。
- ・大学のしめる時間が早い。
- ・学生ホールの券売機の500円玉の入りが非常に悪いです。
- ・自習しづらい教科がある・ダンスサークル用のダンススタジオが欲しいです。
- ・娯楽施設作ってください。
- ・娯楽スペース（ビリヤード・ダーツ等）。
- ・アイスの自動販売機が欲しいです。
- ・シャワー室が欲しいです。
- ・施設が少し狭い。

<留学生：春学期>

- ・日本語が下手なので授業はわりにくい（ママ）

<日本人学生：秋学期>

- ・施設の充実度に欠けている

以上のような意見が見られたが、この中では「自販機の充実」や「券売機の不具合」等は実現可能な項目として検討すべきかもしれない。「娯楽施設」という意見も見られたが、これは今年度、教育厚生棟1階に卓球台を設置したため、その流れに乗じた意見であろうかと思われる。設置した卓球台については、本調査では記述が見られなかったが、ポートフォリオや実際の運用等から見ると学生には好意的に受け入れられているものと思われる。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味

関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい)を設置した。回答は、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う)によった。

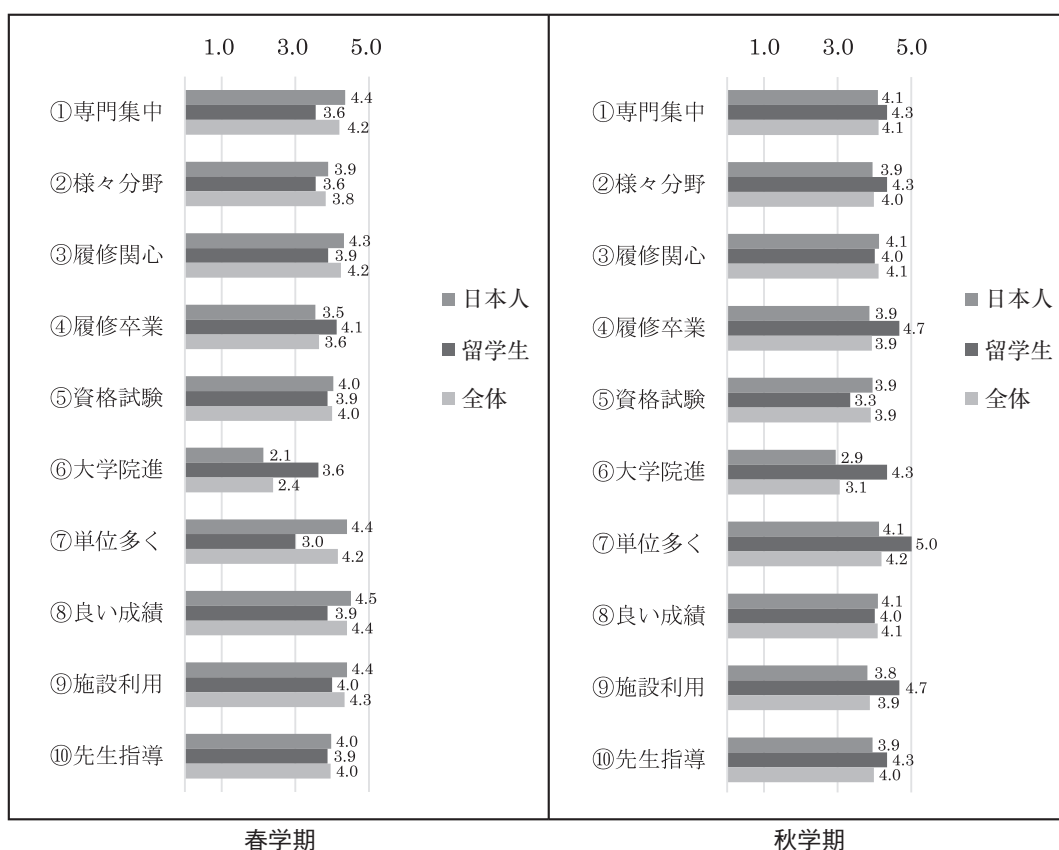


図13

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問1、3、5、7、8、9、10、秋学期は質問1、2、3、7、8、10が4.0を超えた。昨年度は、全体で4.0を超えたのは、春学期4項目、秋学期1項目であった。今後の勉強についても、昨年度よりも今年度の新入生の方が意欲が高いことがうかがえる。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、春学期は14項目の質問(①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミを通じてレポートの書き方が分かった ⑤基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑥基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑦週間日誌を書くのは役に立った ⑧週間日誌を書くの

は面倒くさかった ⑨作文を書くのは役に立った ⑩作文を書くのは面倒くさかった
 ⑪週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった ⑫算数ドリルは役に立った ⑬
 漢字ドリルは役に立った ⑭公民ドリルは役に立った)を設置した。秋学期は、昨年度
 までは春学期の14項目に1つ加えて(⑮グループ替え、教員交代があって良かった)15項
 目であったが、今年度はさらに発表会に関する4つの項目(⑯夏休みの課題「お気に入りの
 場所」の発表会は良かった ⑰大学祭での課題の展示は良かった ⑱最終課題「基
 礎ゼミで学んだこと」の発表会は良かった ⑲卒業研究発表会は良かった)を設置した。
 回答は、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、
 4少しそう思う、5とてもそう思う)によった。

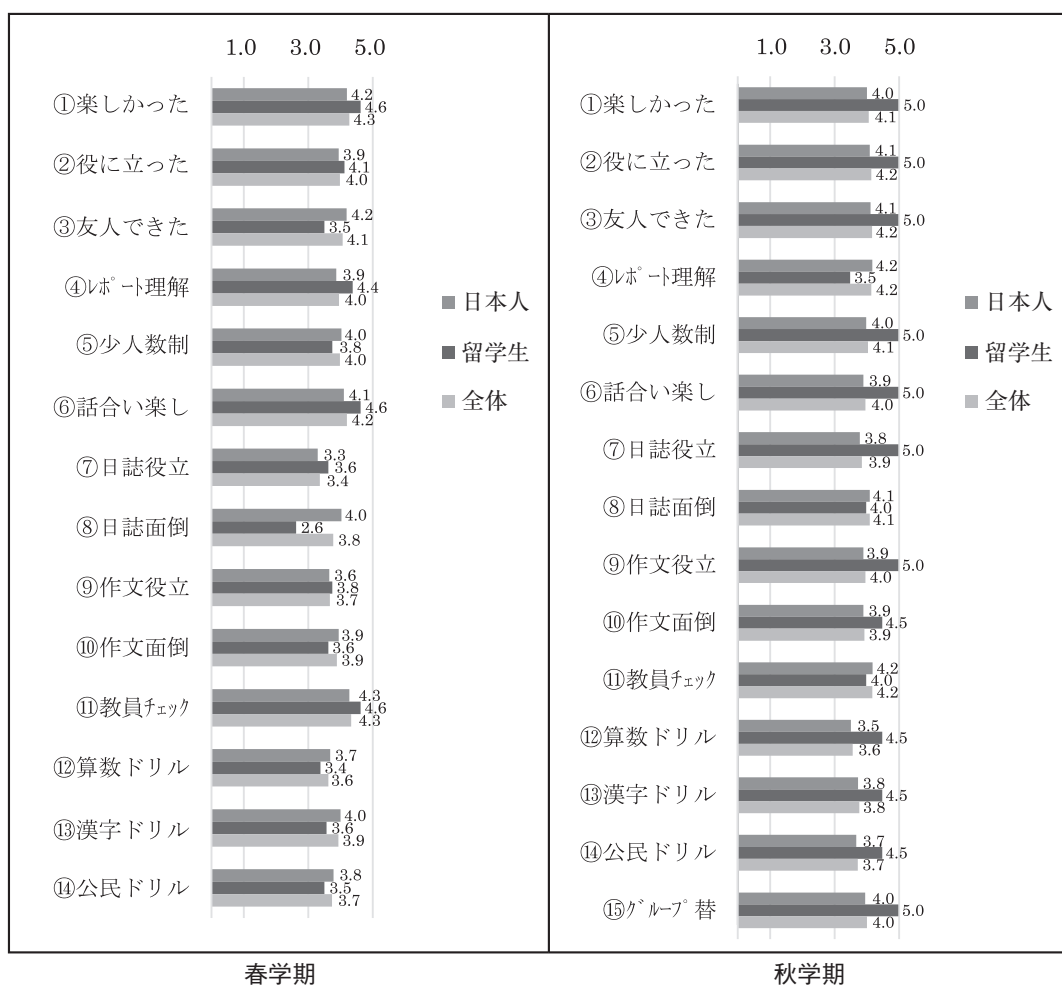


図14

まず、全体の結果で3.5に満たなかったものは、春学期の⑦週間日誌は役に立った、のみであった。また、全体で4.0に満たなかったものは、春学期の⑦、⑧、⑨、⑩、⑫、⑬、⑭、秋学期の⑦、⑩、⑫、⑬、⑭、⑮であった。これらは、ポートフォリオと補助回のドリルに関するものである。ポートフォリオは2週間に1回、教員に提出するものである

が、自己管理能力や作文力向上に役立つという意識づけを今後は行っていきたい。また、補助回のドリルについては、継続して行うことには意味があることかもしれないが、今年度は各種の行事などが入ったため、断続的な実施になってしまった。したがって、学生の評価も下がってしまったのかもしれない。来年度は、補助回についてはドリルを廃止し、本当の意味でテキストを補助する内容としていきたいと考えている。具体的には、補助回についてはテキストの内容をより深く理解できるように全体講義という形式を予定している。

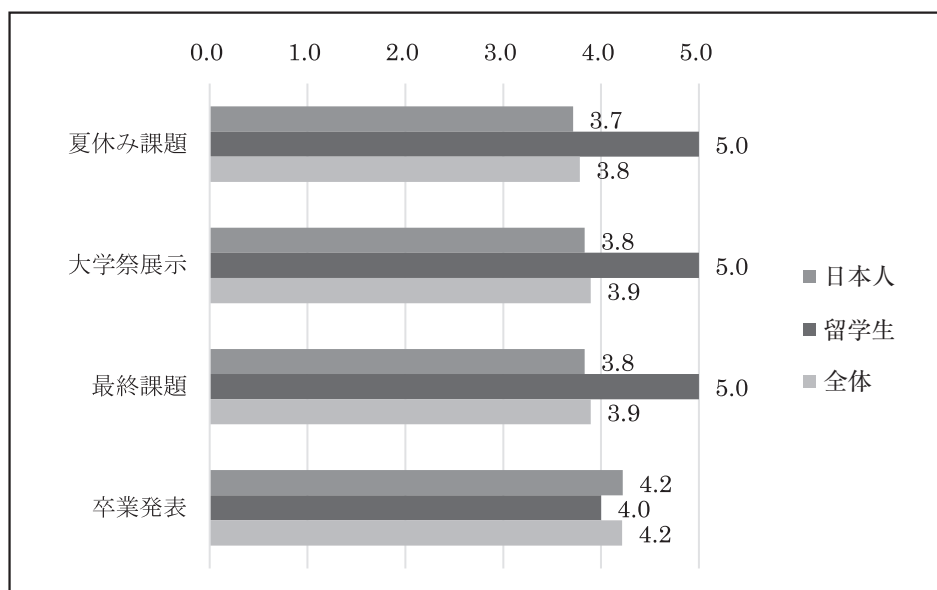


図15

課題発表、卒業研究発表会への参加については、図15に示すような結果となった。課題については全体で4.0を超えたものはなかった。課題という性質上、学生からの高い評価は期待できないのかもしれないが、口頭発表のスキルを向上させるためには今後も必要な項目であると考え。また、今年度で2回目となった卒業研究発表会であるが、今年度から基礎ゼミの授業の一つとして位置付けた。発表会では、4年生が個人あるいはグループによりパワーポイント等を使用し、各人の卒業研究についての発表を行った。基礎ゼミの1年生には発表を聴講させ、発表のテーマと興味深かった点をメモさせた。全体として2時間を超える会であったが、1年生は概ね最後まで集中して聴講できたように思われる。1年生自身も3年後は卒業研究発表を行う身であるので、来年度以降も基礎ゼミの授業の一環として実施していきたい。

次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【コミュニケーション講座について】

＜日本人学生：春学期＞

- ・学校祭展示物は任意にしてみらいたい。

- ・とても学校生活にあたって良いと思った。

学校祭の展示は、夏休みの課題をA4サイズ1枚にまとめて展示するものであるが、基礎ゼミの内容の一端を父兄に開示するという意味においても、今後も継続していきたいと考えている。

4 まとめと今後の課題

本稿では、宇都宮共和大学における平成29年度の基礎ゼミの授業報告と、本科目を受講した新生に対して行った意識調査の結果を示した。

授業報告では、基礎ゼミの概要を説明し、授業内容の一覧を示した。意識調査は、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

平成29年度の基礎ゼミは、補助回に行事が重なったため、ドリルの回数が減少し断続的な実施となってしまった。また、意識調査の結果においてもドリルに対する評価が低かった。補助回としての本来の役割を持たせるのであれば、補助回はドリルではなく教科書の内容を補填するようなものにすべきとの意見も、基礎ゼミ担当者間ミーティングにおいて出された。来年度は、補助回を全クラス合同講義形式とし、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付けられるシラバスにしたいと考えている。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2010）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第11号
- 松田勇一（2011）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第12号
- 松田勇一（2012）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3)－平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第13号
- 松田勇一（2013）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4)－平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第14号
- 松田勇一（2014）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5)－平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第15号
- 松田勇一（2015）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6)－平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第16号
- 松田勇一（2016）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(7)－平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第17号
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8)－平成28年度「基

謝辞：平成29年度の基礎ゼミでは、本学の高丸圭一准教授、石井誠専任講師、小浜駿専任講師、西山弘泰専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。